

計画演習Ⅱ

1. 神戸ランプラス・シティ計画

前半課題担当：各研究室指導教員

後半設計課題担当：本多友常，長濱伸貴

六甲山系と大阪湾に挟まれた東西 30km に渡る神戸市の市街地は、山から海へと向かう南北約 2.5 ~ 4km 傾斜地上に発達してきた。多くの河川や道路などが無数の小さな南北軸を形成している。今回の演習では、神戸市の市街地の構造を理解し、スペイン・バルセロナの市街地に発達しているような海へ向かう軸線=RAMBLA の東として、生活都市・神戸をとらえなおす試みを行う。前半課題はグループによるリサーチとマスター・プランの計画を行う。

■前半課題の進め方

- ・3人程度のグループで行う（ゼミ単位が基本形）。
- ・指導は各ゼミにおいてエスキスを行う。
- ・中間の進捗チェックと講評会を行う（栗山・山口が担当）。後記のスケジュール参照。

■課題内容

- ・神戸市市街地の南北軸を構成する道路を含む幅 100m 程度の区域を選定し、そのエリアを再活性化する計画を策定し、その計画を先導するハードウェア（建築・ランドスケープ）の提案を行う。

[前半課題]

- ・課題の理解・・・ディスカッション・文献調査・資料収集
- ・フィールドワーク・・・採集（スケッチ・撮影・インタビュー）
- ・分析・・・現況図作成、土地利用、ストリート・ファサード等
- ・マスター・プラン・・・将来像の提示、デザイン・ガイドラインの策定

■課題への取り組み方・ポイント

今回の課題は南北に細長く、かつ海に向かって傾斜を持つ地区の将来像を考えるという性格を持っている。したがつて、下記の様な課題に対して、どのように取り組むかがポイントになってくるだろう。

・線状のアーバニズム

ゾーンによるのではなく、場所が連続していくことによる地域のアイデンティティを創出できるか。

・ペデストリアン・シティ=スロー・シティ

東西方向の高速・大容量の交通に対して、生活や身体のスケールを意識した都市空間を描き出せるか？

・ビュー・ポイント、緑地、空地のマネージメント
南北方向の人々の流れ、連続性を如何にして生み出せるか？

・環境ストックの活用

追加するだけでなく、環境を丁寧に読み取ってコンバージョンや減築といった多様な開発手法を駆使する。

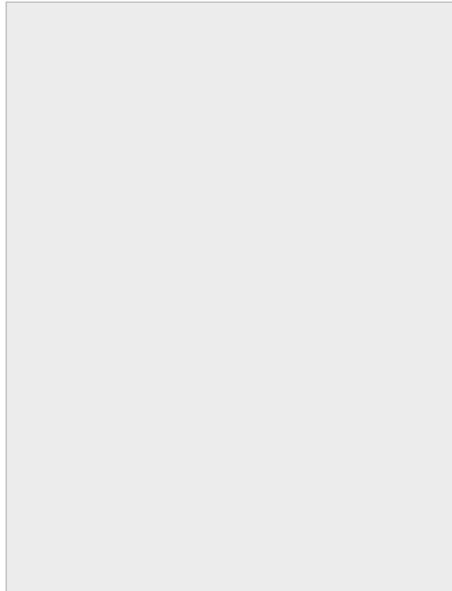
・新旧の対話をデザインする。

・東西方向の大容量インフラとの接続・トランジットをデザインする。

・通過していく交通に対する態度をデザインする。

・実際の河川・水辺にこだわる必要はない。

・対象地が海まで到達していることは必須ではない。



バルセロナの La Ramblas 通り

百年風景

遠藤研究室

Art Road

三輪研究室

まじわる

吉野真美

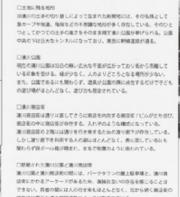


まじわる

■都市 新幹線、第1公園・渓谷・河川空間



■公園と渓谷が形成された渓谷公園と渓谷商店街



■concept 公園と商店街を混ぜ合わせる



□公園と渓谷

既存の公園のままでそのまま「アーバンパーク」としての形態で残す人もある

また既存の渓谷のままでそのまま「アーバン渓谷」としての形態で残す人もある

→「アーバン公園と渓谷のままであるべき」

既存の渓谷のままであるべきを残すため、さきほどのアーバンパークの形への変更を行なう

■diagram



□渓谷2：既存の渓谷を残すもの

ヨーロッパのペースト公園と渓谷のアーモン、既存をつなげる
→ヨーロッパのペースト公園と渓谷のアーモンとなる

既存を残すものとして渓谷のままで残す
→既存の渓谷のままであるべきを残す

既存を残すものとして渓谷のままであるべきを残す
→既存の渓谷のままであるべきを残す

□渓谷3：公園と商店街のどちらもあり得るもの

ヨーロッパのペースト公園と渓谷のアーモン、既存をつなげるとして
100mの幅をもつて残す

■現状の渓谷のままであるべき



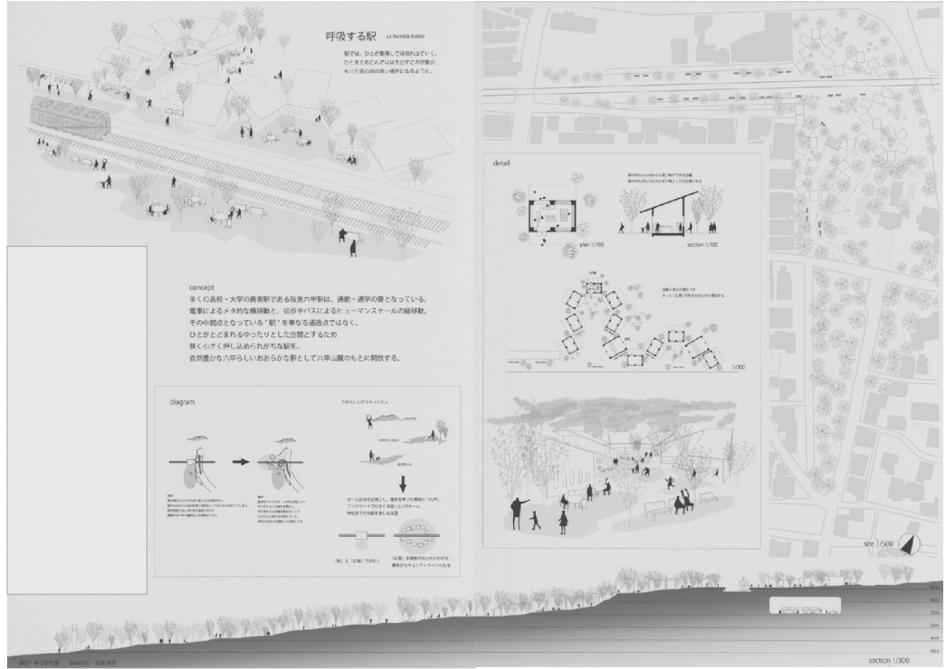
Green Tempo Promenade 軸の終点である湊川公園へのプロムナードをつくる。

谷口豪



呼吸する駅

西島萌花



かいわいのみち

徳永悠希

